

# おれんじニュース

No307

2015年10月号



涸沢ヒュッテに向かう8名。少しの晴れ間。鎗水氏とはまだ出会えてない。

今月の記事

労山新特別基金の案内、雪の浦つがね落としの滝と県民の森、奥穂高～西穂高縦走、網場金比羅岳・不動山、雲仙周回(個人山行)

	2015年10月	2015年11月	時間	場所
運営委員会	13日(火)	10日(火)	13:30～15:30	西諫早公民館
全体集会	28日(水)	25日(水)	19:00～21:00	

# 奥穂縦走雨の旅



ヤチトリカブト



サラシナショウマ



ヨツバシオガマ



イワギキョウ



シラネセンキュウ



ミソガワソウ



イワツメクサ



フジアザミ

## 2015 / 10 月の山行



部	ひまわり山行部	自然保護部	技術研修部&事務局	山行部
月/日(曜)	10/9(金)	10/18(日)	10/23(金)~10/24(土)	10/31(土)
山名(行事)	天草倉岳	稗ノ岳・丸田岳	黒原・京丈、烏帽子岳・五勇山	根子岳東峰
地 図	大島子・棚底	長崎東北部・大村	葉木・国見岳	根子岳
集 合 場 所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	JR 西諫早駅 8:24	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難 易 度	初級	初級、	初級	初級、中級
帰 着 時 間	19:00	19:00	20:00	19:00
歩 行 時 間	4.0h	4.0h	23日(4h)/24日(5.5h)	4.0h
交 通 手 段	マイクロバス	JR	マイクロバス	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	佐倉荘	日帰り
温 泉	?	有り	無し	有
参 加 費	5,000 円	交通費のみ	16,000 円	5,000 円
申 込 期 限	10/2	10/16	10/15	10/20
集 約	林	山口	佐原	高森
備 考	天草諸島の最高峰である。漁民と航海の安全を祈願して祀られた倉岳神社がある。	山頂のタンタン岩周辺は日当たりも良く、ダンギク、カワラヨモギ、イワガサ、イワヒバなどの群生が見られます。	オレンジHC35周年などアニバーサリーのお祝い多数あります。沢山の仲間です。祝いましょう。	地獄谷から天狗峰への紅葉は見事である。フシグロセンノウなどの花も見ることが出来ますよ。
感想文提出	10/19	10/28	11/3	11/11

### 技術研修部だより

9月26日(土) セルフレスキュー 西諫早駅 9:30  
10月17日(土) " " " "

11月14日(土)~15日(日) 田代原でキャンプ  
14日 1時西諫早駅出発 吾妻岳登山 15日 九千部岳登山  
申込は川原まで





部	自然保護部	ひまわり山行部	技術研修部	山行部
月/日(曜)	11/8(日)	11/13(金)	11/22(日)	11/28(土)
山名(行事)	島原・原城跡	古処山(859.5m)	四王寺山(410.0m)	田原山(鋸山)
地 図		甘木	大宰府	若宮
集 合 場 所 時 間	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
体力度・ 技術力	体力・1 技術力・1	体力・2 技術力・1	体力・2 技術力・1	体力・1 技術力・2
帰 着 時 間	16:00	18:00	17:00	19:30
歩 行 時 間	3.5h	5. h	4.5h	3h
交 通 手 段	島原鉄道	マイクロバス	マイクロバス	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉		無し	二日市温泉	有
参 加 費	1,000 円	5,000 円	5,000 円	5,000 円
申 込 期 限	随時	定員になり次第	11/20	11/25
集 約	山口	林	佐原	高森
特記事項	島鉄千円で乗りほうだいの日です。	天然記念物のツゲの古木の下を通ると、縦走路に出会います。紅葉も見ごろになっている事でしょう。	大城山(おおぎやま)と言われるように都府楼前から坂本の大石垣や百間石垣を眺めて歩きます。	オオコマユミの紅葉の時期に熊野磨崖仏に祈り、奇岩を登る。切り立った岩峰の様子から鋸山とも呼ばれています。
感想文提出	11/18	11/23	12/2	12/8

### 「労山新特別基金の案内」

「日本勤労者山岳連盟」の「労山新特別基金」は10月が切り替えとなっています。  
「労山新特別基金」は労山会員であれば、誰でもいつでも簡単に加入できます。  
労山の共済制度で営利を目的にしていません。加入者が増えれば給付額の倍率もあがりま  
す。海外登山、急病なども補償します。

個人1口 1000円(10口まで任意加入できます)

次回の会合で申込むつけます(9月23日、10月13日予定です)

申込は山口まで



## 2015 年 8 月 / 9 月の山行

8 月 21 日 (金)

### 雪の浦つがね落としの滝と県民の森

(参加者)

兵庫、福岡、高田、山下(文)、松田、吉川、中須賀、工藤、松岡、佐原、林(和)、  
間ノ瀬、林(孝)、森、山下(ち) (15 名)

(行程)

7:10 西諫早駅～9:15 つがね落としの滝～10:15 音浴博物館～12:15 県民の森  
～13:00 オリエンテーリング～16:40 全員集合～18:30 諫早着

(感想)

雨が降りそうな天気を心配しつつ出発した。バスが止まりトンネルを抜けるとつがね落としの滝があった。近頃雨が多いせいか水量が多くみごとな滝だった。滝は段々になっているので水さえなければ登れそうなどといいながら記念写真に納まる。

途中に音浴博物館への道があったがバスが通れず右岸の方から回り道をしてや

っと着いた。係りの方の説明も面白く、ステレオによって音があんなにも違うのにびっくりした。博物館というと手を触れないでくださいという所が多いが、図書館のように天井まで並べられたレコードを好きなだけ聴いていいとのことで 45 分の予定が 1 時間 45 分もいることになってしまった。

お昼過ぎに県民の森へ着き、森林館で食事をさせてもらう。県民の森も昔は小さな森林館以外は自然しかないという所が良かったが、いろいろ整備されていてちょっと残念な気がした。

1 時からオリエンテーリングが始まったが初めての事でなかなか番号を見つけられず遅れてしまい、途中で戻るように電話があり集合場所へ急いだが、やはり私達が一番最後だった。



帰りのバスの中で音浴博物館が良かったという声が多かったが、天気が良かったのが一番という人があり、皆それには大賛成だった。

いろいろ下準備された皆さんおつかれさまでした。おかげで楽しい一日でした。

(森 記)

8月29日～9月2日

### 奥穂岳～西穂縦走

(参加者) 川原、鎗水、福岡、田中(静)、白石、山下(ち)、佐賀(直塚、今泉)  
鹿児島(松元) (9名)

### 8月28日(金) 君の名は？(鎗水氏名古屋に到着)

中津川から電車は山間の木曾川沿いに入る、それを縫うように木曾路が通る。  
ところどころ見覚えのある景色が見える、2011年10月木曾路の旅が思い出される。  
まだ8月であるが、稜線に立ち上る雲には柔らかさを感じるようになってきた。  
やがて山間部を抜け塩尻に着いた。

13:20 上高地着、いつ来ても澄んだ景色には魅了される。天気はまあまあであるが、縦走予定のジャンダルム辺りは雲がかかっており、明日からの天気が気にかかる。

Tさんに「河童橋に着いたよ」とメール、しばらくして「ライブカメラ見てるけど」と返信あり、「もう引き返せない所まで進んでいるので残念」と返す。でも本当は小梨平の小さな流れでイワナを見ていたので、河童橋は見えていたのだけれど。Tさんごめん。

14:00 横尾に向って本格的に歩き始める。途中で気が付いたのだけれど、観光客と思しき若い美女が抜きつ抜かれつついてくる(?)。明神館をしばらく過ぎた所の小さな池で鴨を撮影していたら、彼女も嬉しそうにカメラを構えた。少し心配になったので「どこまで行く積りですか」と聞いたら、明神池との事。そこはとっくに過ぎており、明神館から梓川を渡った所なので明神館に戻り教えてもらうようにと説明したら、驚き、感謝して戻って行った。その後ろ姿を見送りながら「君の名は？」と心でつぶやいた。

更に順調に徳澤園、新村橋と進んで行ったが、前方に熊が横切っているのが見えた?!

思わずギョッとして立ち止まったが、良く見るとそれは大きな猿であった。それでまた歩き出したら、前方から次々と親子猿の一団が押し寄せてきた。前後に人影は見え、私は子猿をよけ、親猿とは目を合せないようにしながらやり過ごした。あ～緊張した。

16:10 横尾山荘に着いた。やれやれ！「君の名は？」の一幕はすっかり忘れた。

(鎗水 記)

### 8月29日(土) ぶつぶつぶつ(本隊諫早を出発)

雨、身支度を整え横尾大橋を背景に美女と写真を取り合う。6:45 横尾山荘を立ち、7:45 本谷橋、ここからが本当の山登り。

九州の山より高い所に来ていると思うと一歩一歩が重い。雨は本降りだし、景色は見えないし、ぶつぶつぶつ……。北穂に登ると言う美女軍団やシルバーの一団を追い抜き、9:30 涸沢小屋に到着。さすがに雪渓は後退している。雨の為、奥穂は雲の切れ間にちらほらとしか見えない。今日はここまでにつき一日中寝転んで本でも読もう、こう言うのもいいもんだと恰好を付けたものの、ラジオを聞きながらだらだらと寝てしまった。

そう言えば思い出した。7/28 涸沢小屋を予約した時、対応してくれた女性スタッフは大村出身と言う事で、8/29 会うのを楽しみにしていますと言っていたのに、来てみたら今大村

に戻っていますとの事であった。何だリップサービスだったのか、ぶつぶつぶつ……。

(鎗水 記)

**本隊**：諫早高速バス乗り場に5名が集まる。Y氏は2日前に同じバスで出発した。今頃涸沢小屋でゆっくりしてる頃かな？名鉄バスで今夜眠れるかな？佐賀の二人、鹿児島島のM氏と名古屋駅でちゃんと出会えるかな？心配してるうちに眠りに着いた。(山下 記)

## 8月30日(日) 高度順応(本隊 名古屋到着、佐賀班、松元氏合流)

私は高山病になりやすいので、今日は涸沢(2300m)～奥穂の穂高岳山荘(2980m)までを往復して高度順応を試してみる事にした。

7:00 涸沢小屋を出発。風雨の中、穂高岳山荘を目指す。ザイテングラードまで1.0h、登山道は整備されているものの岩やガレ場を歩くのはつらい。

ザイテングラードにたどり着くと、岩を四つん這いで登るのでさほどきつくはないし、高度はぐんぐんと上がる。でも風雨が増々強く、岩陰に避難する場面もあり。また濡れている岩は滑りそうで緊張する。現実的に右足を滑らせバランスが崩れ、右側頭を岩にぶつけた。ヘルメットをしていたので特にけがはなかったが、もしそうでなかったら確実に頭をけがしている。

9:10 穂高岳山荘到着。3人の若者が今後の行動をどうするか迷っていた。

10:00 下山にかかる。相変わらず風雨強く、ガスで見通しも悪い。下りの方が難しく緊張する。11:30 涸沢小屋着。ずぶ濡れ、全て着替える。

今頃本隊は松本電鉄で移動中？ 多分雨であろう。

**本隊**：朝目覚めたらすぐ窓の外を見た。雨は降って無い。小躍りしながら名古屋駅の広小路コンコースに行く。佐賀のメンバーを待つ間、カフェでモーニングとしゃれる。上高地までの乗り換えは何度か来ているが最新情報をY氏がメールで知らせてくれた。新島島からのバスから見ると梓川の水がすごく濁っていた。ああ～あ。少しの雨なので横尾山荘までは傘さして歩く。先頭に行くK氏がかなり早いスピードで歩く。Sさんも釣られて早歩き。山荘には無事ついたが、荷物が重かったせいか体調不良の様子。食欲無し。明日のことが少し心配。Sさん、早くお休み。私は爆睡。(山下 記)

## 8月31日(月) シルエット(本隊、横尾から穂高岳山荘へ鎗水氏合流)

7:00 全荷物(約9kg)を背負って涸沢小屋を出発し再び穂高岳山荘を目指す。気象状況は昨日と変わらず。

ザイテングラードの取付きの岩陰に「オレンジの皆さんへ、これよりヘルメットを装着の事」と書置きを置いた。本体の誰かが見つけるだろう。

荷物の分だけ足取りは重いが、時々深呼吸をしながらゆっくり登った。

9:30 穂高岳山荘到着。本隊が到着するまでずいぶん時間があるので奥穂高岳に挑戦したが、風雨とガスがひどくハシゴまでは辿りついたものの、特に風は吹き飛ばされそうに強く、登頂はあきらめた。全て着替え、ストーブで暖まりながら本隊を待つ。もしや事故でもと思いつつ待つこと永し。14:00、見覚えのあるころころとしたシル



エットがガスの中に現れ、次々と全員が現れた。

私の高度順応はうまく行ったみたいで、食欲は平地と変わりなかった。(鎗水 記)

**本隊：**横尾山荘、7 時出発。S さんは今のところ元気。本谷橋までは平坦な道。沢沿いに高度を上げて来ると調子が良くないみたい。涸沢ヒュッテに着くと今度は M 氏の靴底が剥げたらしい。幸い、ヒュッテに貸し靴があってこれを利用。皆はここでラーメンなど昼食を取る。1000 円のラーメン美味しかった！

ザイテングラードの取り着き部分の岩棚に何か白い紙が置いてあるなあとと思って良く見ると先発隊鎗水氏からのメッセージだった。岩棚にへばりついて、全員ヘルメットをつけた。風が強いので何時吹き倒されるかもしれない。なんせ、華奢な身体故(笑い)

穂高岳山荘に着くと鎗水氏が窓から手を振って迎えてくれた。受付も済ませ、乾燥室のスペースも確保してくれていた。やっと全員揃って夕食を囲んだ。明日、雨は、止むのだろうか・・・。(山下ち 記)

## 9月1日(火) 賢明な判断

風雨は全くおさまらず、ガスも深い。これでは奥穂高岳まで行くのも難しい。

6:45 下山にかかる。やはり濡れたザイテングラードは緊張する。

下りながら思う。日課として足腰の鍛錬は行っているが、中央山岳地帯のような奥の深い山はそれだけでは不十分。せめて 10kg 背負って、岩尾根を長時間歩く体力・持続力・技術と一人でも耐える気力を養う必要があるのではないか。

15:00 河童橋着。アルペンホテルで久々に温泉に入れ、毎日ずぶ濡れの体から解放された。西穂縦走の目的は達成する事は出来なかったが、高度順応に成功したので満足である。

(鎗水 記)



## 9月2日(水) またやろうね

9:30 ホテルを発つときは雨も上がり、10:00 にジャンボタクシーで高山に向った。

上高地を後にするとき、穂高の稜線は雲に隠れていたが、青空も見え始めていた。

今そこにいる登山者が天気恵まれればいいなと思い、緑まぶしい山々を見ながら高山の町に下りて行った。

やはり山の緑、澄んだ梓川の流れ、岩の殿堂はいいな。またの機会を祈りつつ！

(鎗水 記)

## (感想)

川原さんはじめ、西穂高縦走参加のメンバーの皆さんお世話になりました。残念ながらの雨ばかりでしたが、時折見える常念岳や蝶ヶ岳はきれいでした。ザイデングラードも登って下りて、様子が解かり良かったです。





途中の岩場にあった、Yさんのメッセージもよく飛ばされないでありましたね。(笑)  
西穂高縦走は又の機会に挑戦することにします。

高山で食べた“花いかだ”のかき氷、“寿美久、すみきゅう”のてんぷら、ざるそばセットはとても美味しくて満足しました。

出会いもありました。

穂高岳山荘でバイトされていた伊万里の金子さんや、ワイドビューの車掌の架場(かば)さん、親戚にいるという和仁(わに)さん、車掌さんも一緒になって笑ってしまいました。今、思い出しても吹き出しそうです。

たくさん楽しく、おもしろい話を提供してくださったFさん、おかげで良く笑いました。(佐賀 直塚 記)

8月30日

### 網場金比羅岳&不動山

(参加者) 中里、吉川、山口、森、野中、林(孝子)、佐原、小山、山下(文代)、中須賀、佐藤、山本、松岡、中野、間ノ瀬、工藤、(16名)

(行程) 西諫早駅 9:00—芒塚バス停—去来句碑—切り通し—金比羅岳—あずまや—不動山—日吉下—林道歩き—金比羅あずま屋—総科大附高サッカー部寄宿舍前—西諫早駅 17:00

(感想) 当日は「朝から雨だろう。中止もあるな。」という大方の予想に反して一日中曇り、最後まで雨具の出番はありませんでした。

楽そうな行程で皆さん足取りも軽く早目の集合。

10分程早い出発となりました。日見トンネルの側の出発点で間ノ瀬さんと合流、時間の余裕もあって自然保護部恒例の「おもてなし」精神を發揮



して「普賢饅頭」で1個百円のやたら大きい饅頭を山下文代さんと中野さんが買いに行ったのですが誇り高い店主に、小柄が売りの山下文代さんが「わぁ！大きかー！」と、一言、言ってしまったが為に店主の職人魂に火をつけてしまって「この大きさにする為に、どれだけの努力をしてきたのかあんた分かるか。どうこういうなら買わんでよか！」と激昂させてしまって「16個」でよかったものを30個も買うはめとなりました。自分も半分の15個をザックに入れて運んだのですが店主の意地もつまっているのかなかなかの重さではありました。一同大笑



いた後旧長崎街道を10分程歩いた所で向井去来の句碑。

「君が手のまじるなるべし花すすき」なんて一寸、恰好いい句を読んで往時の丸山の遊女とのやり取り等に想いを馳せました。



その後は金比羅岳まで足に心地良い山道歩きを楽しんで昼食となり食後例の巨大酒饅頭を2つも頂きました。なかなかおいしかったです。

昼食後、不動山まで行って「青年の家」まで行く班とそのまま網場まで下りる班と2つに分かれて最後は「総科大附属高サッカー部宿舎」前で合流しました。

皆さん満足のお言葉。宿舎のベランダにはサッカーのユニフォームがくたっと一寸、元氣なくぶら下がって、もうすぐの秋を知らせてくれる様でした。(松岡 記)

9月13日

### 雲仙周回（個人山行）

(行程)池の原駐車場 9:15-仁田峠-薊谷-紅葉茶屋-普賢岳-霧氷沢-国見別れ  
一妙見神社-仁田峠-池の原駐車場

(感想) 秋晴れの日、ふいっと思い着いて雲仙へ行ってみた。別所ダムを通過して無駄に整備されてしまったヘアピンカーブを一人車を走らせた。

池の原の駐車場への、左折地点で「吹越方面通行止め」の看板が左車線の真ん中に立ってあった。池の原までは行けるのでは・・・と思ったが、車線の半分が看板でふさがれているのでしかたなく仁田峠への循環道路に向かう。料金所（道路整備費と言う名の寄付）の人に聞くと、池の原駐車場までは行けると言う。だったら、看板をもっと、端に寄せてほしいと思い車をユーターンさせた。池の原駐車場には4, 5台の車がかった。仁田峠までぶらぶら歩いて行くと、良く見た顔の二人と出会った。前の日から来てると言う。それもいいもんだと思った。雲仙は涼しいから。今日は少し肌寒いくらい。

先日、北アルプスから帰ってきて予想以上に秋めいていたと思ったが、こちらも秋の花が色々咲いていた。ミズヒキ、キンミズヒキ、ミカエリソウ、ノコンギク、ヤマジノホトトギス。雲仙トリカブトの咲いている場所を探しに行ってみようときよろきよろしながら



薊谷を紅葉茶屋まで歩いた。やはり、雲仙トリカブトは見つからず、紅葉茶屋に着くと風穴から霧氷沢までの間は通行止めの案内が書いてあった。しかたなく以前の登山ルートに登ろうと一休みしていたら、福岡からの夫婦連れが普賢岳への道を聞いてきた。ついでなのでいっしょに登った。

上に行くに従ってミカエリソウの群落があり、スマホで撮りながら頂上へ。そこから霧氷沢へ行き、一人花を眺めながらランチにした。通行止めの所から何人か歩いてきたが別に崩落しそうな所は無いと言う事だった。今回は国見岳はスルーしてロープウェイの乗客を横目で見ながら仁田峠に下りた。白いホタルブクロが少し咲きのこっていた。

愛野でお気に入りのジェラートを食べて家路についた。

(山下ち 記)



本谷橋は往時も復時も雨だったが、雨と8人の重みで吊り橋がたわんでいる様だ。

いつ来ても身がひき  
しまる屏風岩。  
どこから登るんだろ  
う？



ゴゼンタチバナの花の後の実



オオヒョウタンボクの赤い実





普賢岳を通過って霧氷沢まで行く事が出来ます。↑ダイヤモンドジソウ、フクオウソウが群生しています。



→普賢岳近くまでミカエリソウの群生がつづく。



おれんじニュース 307	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡 正 廣
編集責任者 及び 編集委員	山下ちず子 福岡正廣、兵庫芳隆、中野美津子、山口いつ子、 林 和子、山下文代、鎗水律夫
発行年月日	2015.9.23
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	<a href="http://orangehikingclub.com/">http://orangehikingclub.com/</a>

今月はプリントを頼む会社が19日から連休に入る為23日の全体集会に間に合わせようと必死で原稿を集めました。予定では、北アルプスの写真でページ数も増えるかもと、期待していたのですが……。秋の花を求めて雲仙に行ったりしましたよ。  
(山下ちず子)